調査レポート Report

2期連続の改善傾向

～建設業は好調を維持～

《調査概要》

○調査時期
平成29年9月6日㈬～14日㈭
○調査方法
ＦＡＸによる送付、回収
○調査対象
福井商工会議所会員小規模事業所より４００件を抽出
○回答数
２１７件（回収率54・３％）

《調査結果について》

今回の調査結果としては、2期連続の改善傾向となり、業界の景況・自社の景況ともに過去1年で最も高い値となっている。製造業は改善傾向にあり、半導体製造業の好景気を要因として挙げている事業所もある。また、サービス業は他業種と比較すると、ＤＩ値が高く、売れ行き好調な事業所も見られた。

《ＤＩ値とは・・・》

ディフュージョン・インデックス(Diffusion Index)の略で、ＤＩ値が大きいほど事業所の感じる景況感が良いことを意味する。

《前回調査とのＤＩ値の比較》

業種	前回調査と今回の現在DI値の比較					
	業界の景況	自社の景況	売上高（受注高）	仕入価格（商品、資材、原材料等）	販売価格	採算（収支）
全業種	↗	↗	↗	↗	↘	↘
製造業	↗	↗	↗	↗	↘	↘
建設業	↗	↗	↗	↗	→	→
卸売業	↗	↘	↘	↘	↘	↗
小売業	↗	↗	↗	↘	↗	↘
サービス業	↘	↗	↘	↘	↗	↘

※青の矢印は改善を、赤の矢印は悪化を、白の矢印は横ばいを表している。

《調査結果の詳細》

前回の調査結果はＤＩ値が総じて改善した傾向にあったが、今回の調査結果もＤＩ値が改善した項目が多かった。

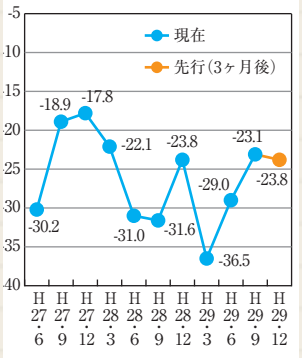
また、3ヶ月後の予測される状況については、業界の景況感・自社の景況感ともに、ＤＩ値が若干下がっており、将来に対する警戒感が感じ取れる。

卸売業は自社の景況・売上高などでＤＩ値が悪化しており、前回調査で回復したことが一つの要因と見られるが、回答事業所の中には、資金繰りが厳しく商品開発できないと回答した事業所もあった。

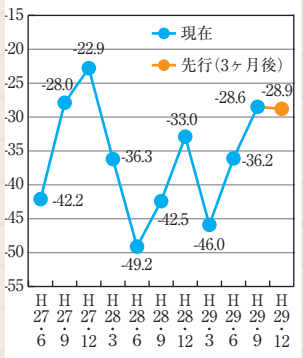
建設業は総じて改善傾向が強く、受注が好調なことを理由に挙げる事業所が目立ち新幹線関連の工事が増えていることを要因とする事業所もあった。

詳しくはＨＰをご覧ください

【自社の景況の推移グラフ】



【業界の景況の推移グラフ】



http://www.fcci.or.jp/

お問い合わせは・・・
福井商工会議所　金融・税務相談課
ＴＥＬ０７７６(33)８２８４